

# サロンあべの

Vol. 117

サロン・あべの2月の出会い

96年2月17日(土) 午後1時  
より、あいにく2年ぶりという

## 人権意識の大切さ 日米障害者比較

大雪の降る天候の中、サロン・あべの2月の出会いを開催した。

2月のパネラーは、早川福祉会館の中にある、自立生活支援

センター・ピア大阪の事務局長  
平下耕三氏である。昨年8月、

アメリカのバークレーへ1ヶ月  
間留学し、自立生活センターや  
権利擁護団体等を訪問した経験  
をもとに、お話しをしていた  
いた。

まず、アメリカで感じた事と  
して、向こうの障害者は自己主  
張ができて、パワーがあるとい  
う事。日本の障害者にパワーが  
無いというわけでもないが、ア  
メリカの障害者はとにかくパワ  
フルである。その日本との差は、  
親の育て方の違いではないか。  
アメリカは障害者の親が強いポ  
リシーを持っている。親が障害  
者を後押しする形で、人権意識  
を育て、強くたくましく生きら  
れるよう成長させている。つま  
り、アメリカは障害者を一人前  
の人間として育てているのに対  
して、日本の親は障害者を、障  
害があるという事でかばい過ぎ

ている。アメリカでは障害を否  
定するのではなく、逆に売り物  
にすらしている。

また、障害者運動の発展にも  
日米での差が存在する。公民権  
法に始まる人種差別撤廃の波が  
あって、障害者にも大学の門戸  
が開かれ、エド・ロバーツを先  
頭に障害者運動が発展した。彼  
は障害者が社会にとって役立つ  
必要な存在である事を強く主張  
した。また、CILを創設。ポ  
リオや傷痍軍人を中心にして政  
治をも動かし、90年にはADA  
法を成立させた。対する日本で  
も、青い芝の会を中心に障害者  
の解放運動が始まり、現在の自  
立生活運動へと発展したが、そ  
の中心は脳性マヒの障害者であ  
った。つまり日米の差は歴史的  
な差でもあるが、アメリカの場  
合、障害者リーダーは口が達者  
なのである。その結果としてか、  
自己主張の難しい知的障害者や

精神障害者の福祉は遅れているようにも思われた。

平下氏が勤務するピア大阪は、行政（大阪市）が資金を出して障害者自身が運営をするという、日本で最初の試みとして誕生した施設である。その事務局長である平下氏自身は、親に突き

放されて育ったようであるが、

今考えると自分自身にとってそ

れが良かったように思えるそう

である。その彼の自己確立6カ

条は：①自分自身を好きにな

る。②自分の事は自分で決める。

③好きな事を見付ける。④うま

く人を使う（自分でできないと

ころは手伝ってもらおう）。⑤他

人に感謝する。⑥夢を持つ事。

自己主張できるパワーを持ち、

楽しく伸び伸び生きて行けたら

と考えているそうである。

参加者からも質問や意見が続

き、悪天候とは逆に、とてもア

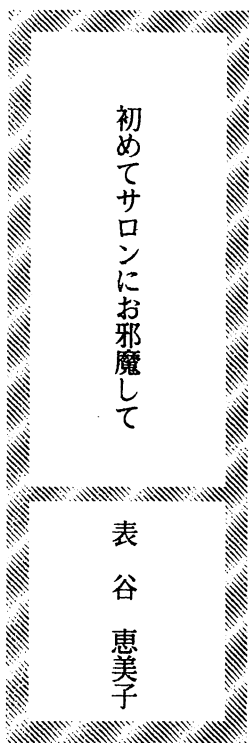
ットホームな雰囲気の出会いで

あった。参加者16名。（上平幸雄）



初めてサロンにお邪魔して

表谷 恵美子



所属している朗読グループでハサロン・

あべのVの音訳をさせていただく様になっ

たご縁で、読者の皆様とはどんな方がたな

のだろうと興味津々、あいにく大阪では珍

しい大雪の中を「サロン二月の出会い」に

出かけました。雪のため参加者は少なめと

の事でしたが、障害をお持ちの方、支援さ

れている方、そして私の朗読仲間も数名。

顔見知りの方がたが多い様で、皆様お互い

に挨拶をかわされ、和やかな雰囲気の中で

会が始まりました。

今月のテーマは、「日米障害者比較」。

アメリカの障害者の現状を視察してこれら

れ「自立生活支援センター・ピア大阪」の

平下耕三さんのお話を伺いました。

熱いお茶と差し入れのアメを戴きながら、

でも、話の内容はアメの甘さとは裏腹に、

日頃障害者の方と接する機会の殆どない私

にとって厳しく、重いものでした。お髭が

少しこわくても童顔で純情そうな青年、平

下さんが見てこられたアメリカは、障害者

がその立場の改善を主張し、日本に比べ社

会の門が少しずつ開かれつつあるとの事。

お話の中で、あるアメリカ人障害者の方

が、親から、おまえは怒って生きよと言わ

れて育ったという言葉が強く印象に残りま

した。そして、参加者の一人でやはり障害

者を持つお嬢さんも、お前は障害者で、健常

者にはなれない事を自覚して生きなさいと

育てられたと話され、その言葉が励みにな

る日本という国は、障害者を持つ人にとって

いかに住みにくいところかという思いがし

ました。

以前、本で読んだレーナ・マリアさんというスウェーデンの両親、片足に障害を持

つ女性が、両親に障害者としてではなく、ひとりの娘として育てられ、今はゴスペル

収集しています。

### ピア大阪「情報資料室」の利用案内

○ピア大阪では障害者の自立生活にかかわる資料をはじめ、各種の図書資料の収集と貸し出しをしています。

◇一般図書資料(障害者福祉の制度・障害者の著書・障害を理解するための本・児童図書・ボランティアなどに関する本)

◇参考図書(事典・統計・ハンドブック・施設一覧・団体リスト等)

◇行政資料(政府・地方自治体が発行した、障害者福祉に関する資料)

以上のほか、雑誌や諸団体機関誌などを

情報資料室は二階にありますが、利用希望者は、一階のピア大阪事務室へ：

◆開室時間 月～土曜(午後一時～四時)

♣貸出内容 二冊以内・二週間以内

○初めての人は貸し出し申込書に記入し住所確認ができるもの(身分証明書・学生証、運転免許書証、障害者手帳等)の提示

○借りるときは資料貸出票に記入。

雑誌の最新号や団体機関誌、「禁帯出」のラベルのついた本は貸し出しできません。コピー(一枚十円)をするようにしてください。

自立生活支援センター・ピア大阪

〒546 大阪市東住吉区南田辺一・九二八

TEL 〇六・六二二一・一八〇

FAX 〇六・六二二一・〇四三三

の歌手として自立されているのを思い出し、同じ様にハンディを背負っていても、その人の努力や両親の愛情とは別に、社会そのものが障害者の生き方を決めるのではないかという気がしました。

後日、新聞で、スウェーデンの元社会福祉相が「日本の障害者は社会から孤立している。ハイテクのリーダー国でありながら先端技術が障害分野に十分活用されていない」と日本の意識と技術の遅れに不満を募らせる記事を読み、この様な国で育った事がレーナさんの大きな支えになっていたのだらうと感じました。

会のあと、はき慣れない靴のためひどい靴ずれをおこした私は足をひきずって帰ったのですが、道すがら私のひきずる足に向けられる目を何度か意識しました。こんな事で障害者の方の気持ちをわずかでも解ったとは思いませんが、楽しい様なほろ苦い様なこの集いに、また機会があれば参加して、学んだり、楽しくおしゃべりさせていただいたいと思っています。

●サロン紙の朗読テープを作成して

阿倍野朗読ボランティアグループ ●今 出 三十栄

「出会い・ふれあい・助け合い、いい言葉だと思いませんか。この言葉通り、身障者の方と健常者の方が共に助け合いながら活動され、サロン紙も毎月発行されているそうです。その朗読のお話がきているんですけど、お引き受け致しませんか？ 身障者の人達と、健常者の人達が、出会い・ふれあい・助け合う、まさに私達が目指していたボランティアではありませんか」

代表の井上さんから、そんなお電話をいただき、本当にそうですね。そのお仕事、是非お手伝いさせていただきたいですね。という事になり、阿倍野ボランティアビューローに、富田さんをお尋ねする事になりました。

私達は、九四年十月に阿倍野市民学習センターに於て、善甫道子先生のご指導の下、朗読ボランティア勉強会として誕生致しました。朗読の基本からご指導いただき、一年前二五名の会員からなる「阿倍野朗読ボランティアグループ」として発足致しまし

た。現在は、勉強会を行いながら、ボランティア活動をさせていただいております。

一月二日、メンバー四人と共にビューローに伺うと、富田さん、奥田さんが待っていて下さいました。富田さんの包み込んで下さる様なやさしい笑顔とお人柄に緊張感も解きほぐされ、話し合いもスムーズに終え、帰宅し早速準備に取りかかりました。先ず最初に、山本敏子さんのテープを聞かせていただきました。

誠実で真摯な読み方にお人柄が伺え、フアンの多かった事にも肯けます。

私達は、二人の読み手に二人のチェックマンという四人編成で朗読をする事にしました。僅か十二頁の中に、報告あり、投稿あり、又、エッセーや外国からのお便り、情報提供等と密度の濃い内容豊かなサロン紙を読んでおりますと、編集の方々のご苦労とアイデアが伝わって参ります。正確に、又、楽しくそしてサロン紙のほのぼのとした暖かみが聞き手の方に伝えられたらと考

えております。手探りの中で終えた一一六号、いかがでしたでしょうか。ご意見やご感想を頂戴できれば、また少しでもより良いものへのお手伝いができるかと思えます。

これからも、沢山の方々と、出会い、ふれあい、そして助け合えたらと思っております。今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



朗読テープのご案内

「アベノ朗読ボランティアグループ」のご協力で、ハサロン・あべのV紙一一六号の録音テープが出来ました。バックナンバーは三九号から、一一六号の分があります。

五〇号は、九〇分と六〇分の二本のテープに、一〇〇号は、一二〇分テープ二本にそれぞれ収録されています。又、絵本「未知の記憶」(作絵 中川勝彦、「ラジオたんぱ」(三〇分)放送の『ハサロン・あべのV平成七年五月の出会い』もあります。いずれもご希望の方には、ダビングをしますので、富田までお申し出下さい。

( ☎ 〇六六九一一〇二八 )

## ドイツからの手紙

St. Andreasberg, 16th January 1996

Dear Keiko!

Thank you very much for your last letter.

Since a few days I am back in my new hometown St. Andreasberg: At Christmas and the beginning of the New Year I made a short trip to celebrate with old friends of my time of study.

Since 15 th August 1995 I am working in a hospital for rehabilitation for patients with gastro-intestinal diseases. It's quite another job than my former job in psychiatry, for instance now I've to teach patients in "ways of healthy life". Many patients have problems with overeating or alcoholism.

I like my new work, it isn't as hard as working in psychiatry. Besides it is a job without limitation of a special time.

The only thing, I must accustom to, is the geography of St. Andreasberg: The little town (only 2000 persons are living here and it's a centre of winter-tourism) is placed in high mountains. So I've problems to drive with my car, because we are in winter with a lot of snow. Therefore I am feeling a little bit isolated. But my colleagues in the hospital have the same problems, so we are joining together and making many activities.

In February I will make holidays on a Spanish isle called "La Palma" together with my boy-friend. There will be as warm as in spring here. I'm longing for some free days, because during the first 6 months in a new position you can't get any free days in Germany.

I hope you are still faring well and have a good beginning of the new year.

With best wishes till our next letter

*Birgitte*

セント アンドレアスベルク

96年1月16日

親愛なる慶子さんへ

お手紙ありがとうございました。

数日前に私の新しいホームタウンになるセント アンドレアスベルクに戻りました。一緒に勉強していた旧友と新年を祝う短い旅行をしました。

95年の8月15日以来、胃腸の病気を持つ患者のリハビリテーションのための病院で働いています。以前の精神科の仕事と

はまったく違う仕事です。例えば今は患者に「健康的な生活の方法」を教えねばなりません。多くの患者は過食かアルコール中毒の問題を抱えています。

私はこの新しい仕事が好きです。(この前の)精神科の仕事ほどきつくありません。他方で特別な時間制限のない仕事です。

たったひとつ(の問題は)、セント アンドレアスの地理に慣れなければならないことです。小さな町(たったの2,000人がここに住んでいます。そして冬の観光地の中心です。)は高い山の中に位置しています。それで車の運転が問題です。なぜなら冬場は雪が深いからです。したがって少なからず凍えそうに感じます。病院の間も同じ問題をもっています。それで私たちは一緒になって、いろんな活動をします。

2月には「ラ パロマ」と呼ばれるスペインの小島にボーイフレンドと旅行することを計画しています。そこは春のように暖かいからです。自由になる休暇を切望していました。なぜならドイツでは新しく職に就いた場合、最初の6ヵ月間は少しも休暇は取れないのです。

では、あなたが毎日元気に暮らされ、そして良き新年を迎えられた事を祈っています。私たちの次のお手紙をかわす日まで。

ブリギッテ



第52回国民体育大会  
おおさか ふれ愛 夢づくり  
**なみはや国体**



第33回全国身体障害者スポーツ大会  
**ふれ愛びっく大阪**  
ときめいて今 はばたいて未来

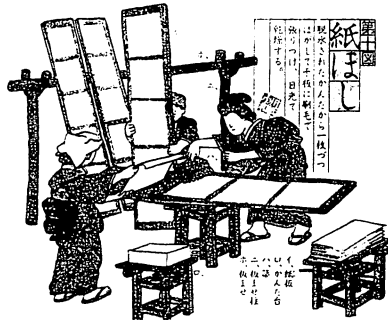
# 作る つくる 創る 河合恵子

和紙作り

三月は、卒園、卒業のシーズン。子供たちが、卒業証書を手ににこやかな表情で元気に校門を飛び出してくる姿に出会う季節。

ところでこの卒業証書の紙を自分たちの手で作る小学校が東京にあると知ってびっくり。和紙の産地であれば驚きはしないのですが、世田谷の山崎小学校には立派な和紙の工房が完備し、ステンレスのすき漕や馬鍬とよばれる水の攪拌用具といった本格的な道具もあります。ここでは、在校生や近隣の小学生が和紙作りを実習するだけではなく、PTAや地域の人々の生涯学習の場としても活用されています。

和紙は楮、みつまた、雁皮といった植物の繊維から作られますが、その原木を刈り取って、蒸して、皮をはがす。それを木灰や石灰、ソーダ



灰で煮て、流水でさらしてあく抜き。ちりを取り除いて一―二時間たつき、繊維を綿のようにほぐして、すき槽の水に浮遊させ、それを簀桁を使って簀の上で水をろ過して紙を作る。

紙は重ねて上から圧力を加え、脱水し、一枚ずつ干板に張り付け、日光で乾燥。選別して、大きさに切る。和紙作りには実に様々な工程があり、丹念な手作業が繰り返される驚き。それにもまして水中に泳ぐ楮の繊維はとても繊細で目をよく凝らさないと見えません。それが、簀の上で一枚の紙という形になる不思議さ。牛乳パックの葉書作りとは違います。もうひとつ異なるのは、すき漕にころあおい、ねりうつぎといった植物の根の粘液を入れて繊維を流すこと。この液は気化して残らないけれど和紙作りにはかかせません。実は先日、私も自分で漉いた和紙の卒業証書？を手にしたのですが、詳しいお話は、この次の機会に。

連載 最終回

# 高齢者と在宅介護

井元 いもと

真澄 ますみ

## 六 おわりに

長らく紙面をいただいてまいりましたこの連載も、今回で最終回です。

毎回、読むに値する内容かどうか疑問に思いながらの連載でしたが、三月末のきりのよいところで、終了させていただきます。

この連載を始めたときは、まだ旧姓でしたので、早いものです。毎日忙しく走り回っていますと、時の経つのが非常にはやく、ただただ驚くばかりです。毎日毎日忙しい思いをしても、振り返ってみると、何もできていないようにも思いますし、事実出来ていないこともたくさんあります。(研究や仕事が思うように進まないときは、怖い夢を見ます。)

そんな日々を過ごしているせいか、「時

間」というものの大切さを、考えさせられています。

作家の住井すすきさんが、ある雑誌のインタビューで次のようなことをおっしゃっていました。「我々の支配者は時間なんです。

—(略)—時間だけは金で買うわけにもいかず、人からぶんどるわけにもいかない。

—(略)—この時間というものを味方につけることが、一つの哲学的救いでもあるし、現実の救いにもなると思うんです。九三歳で、今も執筆活動をなさっている方の言葉には、説得力があります。

また、「時間」について書かれた、古代ギリシャの哲学者の本も読んでみました。大昔にも、時間についてこんなに深く考えている人がいたのだなあ、と、ホッとしました。

そういえば、私の卒論のテーマは、寝た

きり高齢者の家族の介護時間についてだったということも、思い出しました。

時間、時間……。  
本当に、不思議なものです。

サロンあべのが私達に与えてくれるものって何でしょう。その内容が大切なことは、いうまでもありません。読むことによって、様々な情報が得られたり、楽しめたり、知識として蓄積されたり。でも、違った見方をすると、「サロンあべのを読む」という素敵な「時間」を、我々に運んでくれているのではないのでしょうか。そして、これを読んでいる人々は、お互いに顔はあわせなくても、サロンあべのを読むという同じ「時間」を共有していることになりました。人生の時間がどれくらいあるのかわかりませんが、そのどこかに、サロンあべのを読

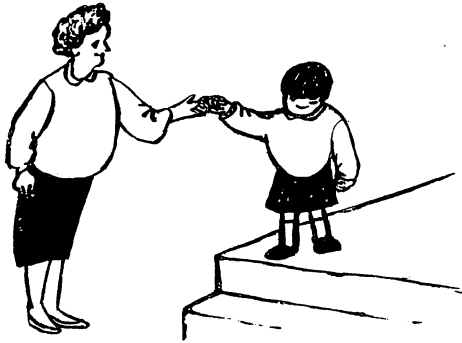
んだ時間が存在しているのです。そうしてお互いがつながっていると考えると、不思議な感じがします。

もうすぐ桜の季節になります。また新し

## ★白い画用紙

白い画用紙を渡されたら、絵筆をとって描きはじめよう、画用紙のほんの少しの汚れなど気にしないで。

あなたは画用紙を渡されたとき、そこに薄いしみのようなものを見つけたのですね。画用紙に雨粒か何かが落ちたのか



い一年が始まるうとしていきます。みなさんには、お目にかかることがなかなかかないませんでした。既に、サロンあべのを読む時間の「共有者」になっていると、勝手に解釈させていただいております。

本当に長い間、ありがとうございました。最後に、いつもいつもお世話になりました富田様、石田様、スタッフの皆様にも、心よりお礼を申し上げます。

もしれません。顔をちかづけたら、やっとな見えるような薄い茶色の点がいくつ浮かんでいました。

せつかくの白い画用紙だったから気になったのですね、あなたは消しゴムを手にとり、そのしみの上をさしごしとこすりはじめた。しみを消して、真っ白な画用紙がほしかったから。これから絵を力いっぱい描くのだから、画用紙は真っ白であってほしかったのですね。

でも、消しゴムでこすったあと、あなたは白い画用紙に黒い汚れがついたことに気づきました。消しゴムには、あなたが前に消した鉛筆の粉がついていたのです。あわてて、こすっても、もう遅い。黒い汚れは白い画用紙に、すっかり擦り

込まれてしまいました。

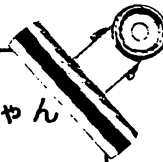
がっかりしたあなたに誰かが渡したのは、ボールペンの文字も消してしまう硬い砂入りの消しゴムでした。あなたは嬉しくなって、こんどは注意深く、黒い汚れをこすり取ろうとしたのですね。

でも、画用紙は砂入りの消しゴムにこすられて、まるで穴があいたように表面が削り取られてしまいました。そこだけ画用紙がひどく傷んでしまっていて、遠くからでもわかるほどでした。あなたは絵を描くのも忘れて、ずっと悲しそうにその画用紙を見つめていましたね。

始めから消しゴムを使わなければ、ほんの薄い茶色の点がついているだけでした。なのに、消しゴムを使ったから、そ



あなたは知らないですか？ 薄  
りのは黒い大きな汚れとなりました。砂入  
りの消しゴムを使うと、とうとう穴があ  
いてしまいました。



おもしろい 姉ちゃん

突然の謝罪に慌てる

長い間、勝手にお休みして  
申し訳ありませんでした。新  
年が明けてから悪夢のような  
毎日が続いていたのです。

その中の一つ、担当の男の  
子にケリをいれられたお話。  
ある先生に、些細なことでお湯の  
みを投げつけてしまった彼。担当で  
ある私は、何とかその場を取り繕う  
と、作り笑顔などを浮かべて  
「すみません。受験前でイライラし  
てるんです」  
とお湯のみの欠片を拾っていると、  
後ろから彼のキックが飛んできたの

い茶色い点々なんて、絵を描きはじめて  
ら、ほとんど目立たず消えてしまうもの  
なのです。その上に青い空を描いてみて  
も、すっかり消えたはずなのに。



です。(笑ったからバカにされたと思  
ったとのこと)

それから数日後、にやにやと近づ  
いてくるので何事かと思えば

「この間ごめん」

の一言。突然の謝罪に慌てた私は

「いいえ、どういたしまして」

と答え、他の職員さんに笑われてし  
まったのであります。

田 淵 美登利

ハサミと糊を持って、そこに別の紙を  
貼り付けるつもりですか？ おやめな  
さい、これから絵を描こうとする人には、  
消しゴムや、ハサミや糊は似合わない。  
絵の具のついた絵筆を手にとって、勇氣  
をもって描きはじめましょう。

気がつかなかったの？ あなたが薄く  
茶色いしみを気にしていたのは、絵を描  
きはじめることが恐かったから。上手く  
描けなかったらどうしようと不安だつた  
から、与えられた画用紙ばかりを見つめ  
ていたのです。

画用紙は交換できません、みんなに一  
枚ずつしか与えられないのですから。穴  
があいてしまっても、それを受け入  
れて描きはじめなさい。そこにたつぷり  
と絵の具を塗りつけたら、穴なんて消え  
てしまうでしょう。

よそ見をしないで。他の人と比べる必  
要はないのですよ。あなたらしい絵を、  
あなたらしく描いてください。夜になれ  
ば闇がきます。あなたが描くことができ  
るのは光ある間だけなのです。(知)

## 美智子のこんな話

岸田 美智子

### 二次障害について

私たちCPの障害者の多くがかかりやすい頸椎の損傷、いわゆる二次障害については、少し前にこの欄でも書かせていただきましたが、この二次障害についての数少ない本が最近、発行されました。このような本はとも少なく、なかなか手にはいないのも問題なのです。

最近読んだこの本、『二次的障害に挑戦する』（発行：全国肢体障害者団体連絡協議会）は、今までのような症例の紹介だけでなく、その原因を日本社会の全般的な状況からとらえて、わかりやすく説明されて

いますし、対処方法も手探りながら書かれています。

その原因をまとめている文章がありますので、少し長いですが紹介します。

#### ① 大きい経済的負担

重度障害の場合、障害者医療で健康保険の自己負担分を地方自治体で負担してもらえませんが、通院時のタクシーなどの交通費、入院時の付添費、差額ベッド・個室代、そして医療従事者やヘルパー、ボランティアへの謝礼などの出費が多い。

#### ② 健康保持の困難な生活

住宅が狭くて、住環境が悪く、食生活にも問題を持ち、運動不足などと健康保持が難しい場合が多い。

#### ③ 保護雇用制度がない

働く上で施設・設備を改善するための補助制度や障害者多数雇用工場など施設・設備が障害者向き（ほとんどが車椅子向き）になっている職場はあるが、保護雇用制度はなく、一般基準のもとに働いている。多くの障害者は自分でハンディを補うために背伸びしつづけた状態で働いている。

## おしゃべり文具

紙を切ることに「チョキチョキ」という鉄。印鑑を押すと「タコボン」と叫ぶ印鑑ホルダー…。などの「おしゃべり文具」が自己表現欲求のハケ口を求める人の間でウケているとか。なにがなんでも「かきた」です。  
齋藤 美智子 二五回

#### ④ 町の構造上に問題

段差があるため一歩外へ出るにも介助を必要とし、道路も歩道が狭かったり、電柱や立て看板で通りづらく、リフト付きバスは全国でも数えるほど、駅舎は段差が多く、エレベーター、エスカレーター、車椅子トイレなどない場合が圧倒的。医療機関が障害者も利用しやすいよう施設、設備を考慮したものがまだまだ少ないと、町の構造上に問題がある。

#### ⑤ 介助者を得にくい

介護を家族に頼る場合でも、親が健康

で若い時はともかく、わざわざ仕事を休んでもらわなければならぬことも多い。ガイドヘルパーも家族がいたり、上肢に障害がない人はだめなど制限があり、実際範囲の狭くなりがちな重度障害者にはボランティアを得ることも難しい。

⑥医療従事者にもある障害者への偏見、差別

車椅子に乗っていたり杖をついたりしている人に見下したような口をきいたり、脳性麻痺者など全身性障害者には赤ちゃん言葉を使い、症状の聞き取りや説明は本人を無視して、介護者にするなど対等な人間として扱ってもらえないことがある。これが障害者本人に与える精神的ダメージは計り知れない。

⑦まったくない障害者への診療報酬と施設基準の配慮

最も問題なのは診療基準にまったく障害者への配慮がないことだ。手続き、移動、検査、診察、入院看護などの部分をとっても、医療機関側が障害者への十分な理解と配慮をもって対処しようとするればするほど時間と人手を必要とするが、それが診療報酬の上ではまったく考慮さ

れていない。また施設基準の上でも医療

機関なら最低基準内であって当然だと思われるが、機材や椅子が邪魔になって車椅子で通れない廊下、ベッドの間が狭くて車椅子での移動ができない病室、車椅子トイレがないなどというところも多い。医療機関の人的配慮、施設設備の不備、スペース的な余裕のなさが障害者の受診を阻み、自立と介護を困難にしている。

以上のように、現在の日本の社会状況が、障害者の二次障害をうながしているように

思えます。

他にも、体格的に日本人は骨格が小さい体型なので、頸椎などの変形が出やすいという、整形の医師からの意見もあります。その対処方法には、まだまだこれといった決めてはないのですが、いろいろな予防策がこの本には書かれています。この予防方法についてもまた紹介できれば、と思っています。

皆さんもう一度、二次障害の背景について考えて見て下さい。



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」・「ウイズ東淀川」

○4月の出会いは淀川・東淀川合同です。

日 時・4月14日(日)

午前9時～16時

\*集合場所=淀川区民センター

\*集合時間=午前8時45分(厳守)

\*当日連絡先=窪田 携帯電話

TEL080-52-58526

内 容・「盲導犬訓練所見学」

行き先・大阪府千早赤坂村

盲導犬訓練センター

会 費・1000円

問い合わせ先・☎06-394-2900

大阪市淀川区社会福祉協議会

ボランティア・ビューロー



お知らせ

サロン・あべの4月の出会い

日時 4月20日(土) 午後1時~4時  
場所 育徳コミュニティセンター研修室

(阿倍野区阪南町5-15-28)

スロープ、車いすトイレ有り)

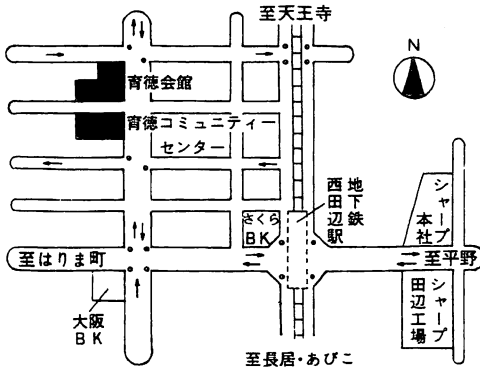
テーマ 「世界一周船の旅」

パネラー

童夢KANSAI 河江孝美氏

お申し込み・お問い合わせ先

☎06(691)1028 (富田慶子)



「サロン・あべの」十周年記念誌「はあとが、はろー!」と、絵葉書「わがまち阿倍野」が出来上がりました。ぜひ、どうぞ!

がべちゃん先生の本

曾我部教子さんが著書「がべちゃん先生の自立宣言」を発売されました。

ケニア旅行中、乗った熱気球が着地に失敗、全身マヒのハンディキャップトになっても、中学教師としての情熱はさめず、自立生活から教職復帰までの心の軌跡を歌と簡潔な文章で語られています。ご希望の方は左記へお問い合わせください。

☆「がべちゃん先生の自立宣言」  
定価一八〇〇円 送料三二〇円  
発行・樹心社、発売・星雲社  
\*注文と問い合わせ先  
☎〇六―四八二―四八九四  
曾我部教子

感謝します

カンパ、切手、お茶菓子、写真、冊子等のご寄贈。一筆箋、絵葉書、エッセー集等、お買い上げありがとうございました。お礼を申し上げます。

今西美奈子、カプリース、定兼万代子、曾我部教子、松本妙子、久木 浩、平下耕三、堀部俊二、山野莊一、和田保子

(匿名二名)

FROM EDITOR

編集後記

井元真澄さんの「高齢者と在宅介護」は今月号で終了です。タイムリーな話ただただに何人かの方から「ウン、ウン」とうなずきのお便りをいただきました。また、例会でお呼びしてもらえないかとおっしゃる方も、中にはいらっしゃいました。2年半、どうもありがとうございました。(石)

編集人; サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.117[ '96. 3.16. 発行] 定価¥100.  
代表; 上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303 電話06-621-4365  
連絡先; 富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 電話06-691-1028  
表題; 井上憲一・筆 文中イラスト; 石田美禰子  
印刷; セルフ社〒546 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F  
TEL06-719-8212 FAX06-719-8213